

2021年度 社会福祉法人京都愛心会 特別養護老人ホーム宇治愛の郷
事業計画

1、事業目的

当法人は、運営理念に基づき高齢者福祉に貢献することを目的とし、老人福祉法、介護保険法の遵守に努め、多様な福祉ニーズの変化に迅速かつ柔軟に対応出来るように、創意工夫しながら入所者が個人の尊厳を保持しつつ、施設での生活を通じて、自立した生活を地域社会で営むことが出来るように支援します。

入所者一人ひとりの意思及び人格、自己決定を尊重し、施設サービス計画に基づき、入所者がその人らしい生活が継続出来るよう、自律的日常生活が営めるような支援をすることを目的とします。

2、基本方針

施設の基本方針に基づき、入所者の安全・安心な生活が送れることを常に考えながら、良質な各種サービスの提供が出来るように支援します。その為に、急変時の対応（救急の受け入れ体制の確立）、感染症や事故予防の為に取り組み、看取り介護・看護など円滑に行くために、宇治徳洲会病院や、徳洲会介護部門との連携を図り、体制の構築に努めます。施設内では、委員会活動や、勉強会を通じて、職員一人一人のスキルの向上と、チーム力の強化を図ります。

3、施設年度目標

1) 働きやすい職場環境の提供

- ①介護士の確保・定着（離職対策）・介護リーダーの育成・介護主任2名、副主任2名体制の確保
- ②福利厚生基盤強化
（親睦会開催 3回/年 ・部署別の懇親会への援助金）
- ③職員満足度の向上（アンケート調査2回/年施行・分析し、離職予防に繋げる）
- ④有休消化率のアップ（70%以上）
- ⑤感染症の拡大防止に努める（新型コロナ・インフルエンザ・ノロ・疥癬・他）

2) 利用者の健康状態を維持しながら安全・安心して生活できる環境の提供

- ①事故予防対策の強化（レベル3以上の事故を0にする）
- ②利用者のQOL（生活の質）を高め、ケアの質の向上を目指す
- ③感染症対策の強化
 - ・感染症予防対策のための必需品（機材・薬剤・物品）の整備
 - ・新型コロナワクチン接種が円滑にいくために病院との連携を踏む（利用者・職員への対応）
 - ・感染予防対策のためのマニュアルの活用、環境整備、職員教育の徹底化
- ④新型コロナ感染拡大のために制限していたイベント、ボランティアへの依頼などを再開
 - ・感染予防対策を徹底し工夫しながら開催する
 - ・開催に向けて職員の体制も整える
- ⑤面会禁止の解除ができるまではリモート面会の継続
 - ・利用者、家人の要望に対応していく

3) 経営への意識向上

①安定した入所者稼働率の確保・空室日の減少

・長期入所 100% ・短期入所 95%以上目標 ・空室日の減少

②コスト削減（節電・消耗品・材料費などの無駄を減らす）

4) 終末期看護・介護

①看取り受け入れ体制の強化（職員のマンパワー充足・看取り看護、介護ができる職員教育）

②病院との連携を諮り、施設での看取り期の判断基準を作成する

5) 教育体制の確立（職員の質の向上に努める）

①定例の勉強会参加率のアップ（不参加者はレポートの提出）100%目標

②施設外研修への参加率のアップ（リモート研修場所の確保）

③看護・介護リーダー教育の導入（介護主任を中心に、指導者の育成）

④リーダー教育の確立・システム化（関西ブロック徳洲会介護部会との連携）

4、重点目標

2020年はコロナ禍に翻弄された一年でした。現在も終息までには至っていないので、今後も感染拡大防止に努めていきます。その為には職員の協力が不可欠なため、感染に対する意識を高め利用者の安全を守ります。

継続課題として介護士の「人材確保と育成」「離職予防対策」に取り組みたいと思います。離職者を減らし介護士の定着を諮るためにも働きやすい環境作りや、職員一人ひとりが責任とやりがいを持ち、成長できるシステムの構築と、指導者の育成が必要です。責任感のある人材の育成を目指し、ケアの質の向上に繋がります。

高いサービスの質を追求するためには、知識・意識・技術（スキル）が必要です。教育委員会と介護主任を中心にリーダー教育の継続と適切な評価をしていく事で、職員のスキルアップに繋がります。

その為には実践で生かせる教育・指導が出来るリーダーの育成と、職員個々の学ぶことへの意識の向上が必要です。各委員会の委員長を中心に、マニュアル類の見直しと、取り組んでいる課題や計画を教育に活かしていき、特養で勤務する職員としての自覚と、役割が果たせるように努めます。

利用者の高齢化に伴い、ケアにかかる時間が増えており、忍耐力が求められます。介護士の人員不足を補うためにも「見守りシステム」導入の検討も必要です。人員不足により業務が多忙化してくると離職へと繋がりやすいため、介護士の定着を諮るための業務改善や、職種間の連携強化、職場風土の構築が必要です。働きやすい職場作りを目指し、職員の経営への意識向上を目標に、安定した施設運営ができるようにリーダー教育にも力を入れ、職員が働きやすい環境の提供と、利用者が安全・安心して生活出来るための施設作りを目指します。

2020年度より徳洲会介護部会（特養部会）がブロックごとに活動を推進して行く方針（業務・運営、コンプライアンスなど）で動き出しましたが、新型コロナの感染拡大のために活動が出来なくなった為2021年も特養部会として活動に参加し、施設運営に活かしていきます。

5、職員教育計画

(施設内研修)

開催月	勉強会テーマ	開催月	勉強会テーマ
4月	・感染症対策基礎編（手指衛生・PPE着脱法） ・食中毒について（食品・物品取り扱い）	10月	・認知症ケアについて（実践編） ・事故発生又はその再発防止対策
5月	・適切なオムツの選び方・あて方 ・口腔ケア（概論）	11月	・倫理及び法令順守 ・記録とケアプラン
6月	・口腔ケア ・排泄概論・スキンケア ・摂食嚥下について	12月	・記録とケアプラン ・高齢者虐待防止に関する研修 ・急変時の対応（BLS）
7月	・認知症ケアについて（概論） ・感染症対策について （コロナ・インフル、ノロ他）	1月	・接遇マナー ・介護保険サービスについて
8月	褥創予防・ポジショニング ・急変時の対応（BLS）	2月	・介護職が行ってはいけない医療行為・VS ・立ち上がり・移動・着脱介助方法
9月	・身体拘束廃止に向けての取り組み ・移乗・移動（実践編） ・非常時・災害発生時の対応	3月	・立ち上がり・移動・着脱介助方法 ・看取り研修 ・個人情報保護及びプライバシー保護

(施設外研修)

- ・徳洲会関西ブロック介護部会主催研修会（介護ラダー教育継続・看護師ラダー教育導入・リーダー研修）
- ・宇治徳洲会介護連携プロジェクト主催研修会（合同での事例検討会 3回/年間）
- ・看護協会・府老協・他研修会（看取り・感染・認知症・接遇、事故防止・身体拘束、虐待・他）

6、介護老人福祉施設事業計画・運営（長期 80床）

昨年は新型コロナ感染拡大のため、感染予防対策に追われた日々を過ごす1年間でした。面会制限や、イベントの中止などで家族と会えない日々が続いたため、12月からリモートでの面会を開始しました。新型コロナ感染の終息まではリモート面会を継続します。

2021年は感染の動向を見ながら感染予防策を徹底し、通常の生活に戻していきたいと思いません。その為にはワクチンの予防接種が不可欠なために、早期にワクチン注射ができる事を望んでいます。感染拡大の収束状況を見ながら慎重に進めていきます。

事故の予防対策や健康管理を強化しながら、嘱託医とも密に連携をとり病状の悪化防止に努めます。医療的処置が必要で施設での生活が困難と判断した場合は、宇治徳洲会病院のソーシャルワーカーと連携し転院の方向で進めます。1日でも早く待機者の受け入れが出来ることで地域への貢献と、利用稼働率100%を目指します。終末期と診断され施設看取りを希望された場合は、本人や家族の意向を尊重しながら利用者の状態に応じて受け入れていきます。安心して施設で最期を迎えて頂くためにもマンパワーが必要なため、離職予防に努めながら看取りケアができる介護士を育成します。

離職の理由としては様々で、体力面で現在の業務を継続する事が困難になった職員も数名いますが、運営上の問題や、適応能力にも原因しています。具体的理由として、①現場での指導や教育が出来る人材が少ないために育てられない、信頼出来るリーダーがいない。②介護士としての自覚と能力が欠けており仕事に適応できない。③協調性がなく職員間のトラブルが多い。④指導しても自己のレベルアップに繋がらず自立できない。⑤認知症や指示が通りにくい利用者への対応が出来ないためストレスで自己のコントロールができない。②から⑤は自己の問題も多く含んでおり、最終的には働きづらくなって離職の原因となっています。

以上の内容から2021年の課題としては教育体制を整え、介護主任・副主任と連携強化をしながら、早期に対応し問題解決が出来るように取り組んで行き、働きやすい職場風土の構築を目指します。

利用者に寄り添う事が出来る介護士が多ければユニットケアを良い方向に導き、利用者も日々の生活が穏やかに過ごせて健康の維持にも繋がります。QOL（生活の質の向上）を高めるためには介護士として力が発揮出来る人材が必要なため、ユニットリーダーの育成と、介護主任、副主任が中心となり指導やフォロー出来る体制の確立と、ユニット運営が円滑にできるためのサポートをしていきます。

利用者が安全で安心した生活を確保し充実した日々が送れる為にも、新型コロナへの感染状況を考慮しながら季節毎のレクリエーション、イベントなどを開催し、生活に生きがいを感じられ楽しんで頂けるような工夫をします。その為にはレクリエーション委員会や給食委員会を中心に年間計画の実行を目指します。

利用者の健康管理では、発熱での病院受診時は宇治徳洲会病院の協力により、新型コロナの感染を予測して検査や入院の受け入れをスムーズにして頂いた結果、安心して施設運営ができました。今後は、施設での生活が安全・安心して営まれるために利用者や職員のワクチン接種が不可欠です。どのような手順でおこなわれるのかの情報がないので不安ではありますが、病院との連携を諮りながら施設として出来ることの対応をしていきます。

2021年も感染症の発生率0%を目標に感染予防対策に努めます。

利用者の異常の早期発見に努め、重症化しないためにも24時間いつでも病院受診の対応が出来るように、家族の方とも連携強化をしていきます。転倒・転落などの事故でレベル3以上（事故で受診や入院）を0にし、安全・安心して生活できるために、トータルリスク委員会でも事故報告書を分析し、改善策の評価をしながら事故の減少に繋げて行きます。施設内での感染症のアウトブレイク（集団感染）やコロナのクラスター化をおこさないことが重要な課題なので、感染対策委員会を中心に職員への予防対策の指導教育を継続します。利用者の健康状態に応じたケアを行い、事故に対しての意識も高め発症件数の減少に繋がります。

個人プレイを無くし、チームとしてケア出来るようにマニュアルの活用を浸透させ、定期的な技術指導も行い個々の力量アップに繋げて行きます。

利用者の楽しみの一つでもあり、健康管理面でも重要な、「食欲増進」、「体力の維持」を考え、栄養管理部や給食委員会の協力を得て、おやつを提供日を増やし、季節感や、郷土感を感じて頂く献立を計画します。昨年同様に「食への楽しみ」を味わって頂けるような内容や、食事携帯も考慮し利用者が参加してユニットで調理できるメニューを取り入れていきます。

嚥下機能の低下で経口摂取が困難になってきている利用者が増えており、現在胃瘻からの注入食の利用者は3名ですが予備軍は少なくありません。口から食べる事が難しい利用者には目や臭いで楽しんでもらい、たしなむ程度でも味わっていただける食事携帯の工夫をしながら、生きていることへの喜びに繋げていきます。

7、短期入所生活介護事業計画・運営（短期 20 床）

ショートでの利用稼働率は平均 57% で維持してきましたが、開設してから一度も目標達成には至っていません。長期の入所希望で待機者の人数を考えると、ショート運用を 10 床へ変更し、残りの 10 床は長期利用者へ運用変更をしていく方が、有効活用出来るのではないかと考え、宇治市にも変更の申し出をしています。本年度中には運用の変更が出来る用に進行中です。

短期入所者の利用数を増やし、利用稼働率 95% 以上の目標達成に向けて利用稼働率を増やす努力も必要ですが、運用の見直しも必要です。宇治市の特養施設の 1 つとしての地域での役割も十分に果たしていくためにも行政の協力が不可欠なため、協力の要請を継続していきます。

介護士のやり甲斐やスキルのアップを目標に、マンパワーを充足させていつでも受け入れが可能な状況を作っていくことや、近隣の病院・他施設・ケアマネジャー・ソーシャルワーカーと今まで以上に連携強化し、利用者確保に繋がります。

開設 7 年目を迎え、ショート利用者が 100% に達成出来ていない事は大きな問題点なため、早急なショート運営の見直し、検討が必要です。